



女性学研究センター年次報告・2011年度

著者	伊田 久美子, 村田 京子
引用	女性学研究 .19 ,p.130-135
その他のタイトル	2011 Annual Report
URL	http://hdl.handle.net/10466/13714

女性学研究センター年次報告・2011年度

1. 運営体制

センター長 伊田久美子

副センター長 村田京子

専任研究員 (センター長・副センター長のほか)

浅井美智子、熊安貴美江、堀江珠喜

兼任研究員 青木賜鶴子、児島亜紀子、田間泰子、東優子

共同研究員 ケイン・ケビン、酒井隆史、福田珠己、宮脇幸生、

森岡正博、山中京子、渡辺博明

学外研究員 足立眞理子 (お茶の水女子大学)、木村涼子 (大阪大学)、

古久保さくら (大阪市立大学)

事務職員 伊藤ゆきこ

2. 授業

・大学院科目 (人間社会学研究科)

「学際現代人間社会論演習Ⅰ」「同Ⅱ」(半期各2単位。伊田久美子・田間泰子・森岡正博)

「ジェンダー特論1A」「同1B」(半期各2単位。伊田久美子)

「同2A」「同2B」(半期各2単位。田間泰子)

「現代人間社会特殊講義」(半期2単位。木村涼子)

・専門科目 (学部科目)

「ジェンダーと社会」(半期2単位。伊田久美子)

「ジェンダーとスポーツ」(半期2単位。熊安貴美江)

「ジェンダーと社会思想」(半期2単位。浅井美智子)

「ジェンダーと教育」(半期2単位。堀内真由美)

「ジェンダー論演習A」「同B」(半期各2単位。伊田久美子・田間泰子)

「ジェンダー論入門」(後期2単位。浅井美智子・伊田久美子・田間泰子)

・教養科目（機構提供科目）

「ジェンダー論への招待」（前期2単位。田間泰子・宮脇幸生・森岡正博・児島亜紀子・酒井隆史・青木賜鶴子・西田正宏・山崎正純・浅井美智子）

3. 女性学連続セミナー

「ジェンダーの視点を学ぶ」（6月16日～7月14日）

[各回のテーマと講師]

第1回「家族とジェンダー」 牟田和恵（大阪大学教授）

第2回「労働とジェンダー」山田和代（滋賀大学准教授）

第3回「スポーツとジェンダー」熊安貴美江（本学准教授）

第4回「セクシュアリティとジェンダー」尾辻かな子（評論家・元大阪府議会議員）

第5回「複合差別とジェンダー」朴君愛（財団法人アジア・太平洋人権情報センター上席研究員）

4. 女性学研究コロキウム

第1回：「宝塚歌劇団における男女共演の課題」（12月9日）

発表者：クロード・ミシェル＝レーヌ（フランス国立東洋言語文化大学（INALCO）大学院研究生）

第2回：「非典型的なセックス／ジェンダーの発達」

（2012年1月20日。発表に関連する論文を本誌に掲載。）

発表者：ミルトン・ダイヤモンド（ハワイ大学教授）

第3回：「文学とジェンダー フランス文学と絵画」

（2012年2月4日。本誌掲載。）

「ジョルジュ・サンドの作品における女性画家像—『ピクトルデュの城』をめぐる—」

発表者：村田京子（本学教授・女性学研究センター副センター長）

「プルーストとアスパラガスとジェンダー」

発表者：青柳りさ（金沢美術工芸大学教授）

5. 国際交流事業

日韓シンポジウム「ジェンダー研究の現在」

(於大阪府立大学中之島サテライト)

第1シンポジウム「主流化に向けて—ジェンダー政策の課題」

(12月17日開催)

報告者

キム・ソンウク (韓国梨花女子大学学長)

竹中恵美子 (大阪市立大学名誉教授 ドーンセンター元館長)

山地久美子 (関西学院大学災害復興制度研究所研究員)

討論者

伊田久美子 (本学教授・女性学研究センター長)

田間泰子 (本学教授・女性学研究センター研究員)

コーディネーター

伊田久美子

第2シンポジウム「多文化とジェンダー」(12月18日開催)

報告者

河合眞澄 (本学教授)

イ・ミョンソン (韓国梨花女子大学アジア女性学センター特任教授)

イ・ギョンラン (韓国梨花女子大学梨花人文科学院HK研究教授)

村田京子 (本学教授・女性学研究センター副センター長)。

コーディネーター

村田京子

6. 男女共同参画事業

ワークショップ (韓国聖公会大学NGO大学院 スタディーツアー)

(8月27日開催 於韓国聖公会大学NGO大学院)

報告者

仁科あゆ美 (財団法人大阪府男女共同参画推進財団)

伊藤良子 (大阪府立大学)

伊田久美子 (大阪府立大学)

パネリスト

キム・ヨンナム (聖公会大学・テジョン女民会)

- チョン・ウンジャ（聖公会大学・キョンウォン社会福祉会付設女性障害者性暴力相談所）
 ジャル（オンニ・ネットワーク）
 コーディネーター
 ホ・ソンウ（聖公会大学NGO大学院）
 伊田久美子（大阪府立大学）

7. 図書・文献資料の収集

例年どおり、外国語文献資料ならびに新刊邦語文献を中心に収集した。
 諸雑誌の購読も継続している。

8. その他

- ・シンポジウム「デートDVを考える～教育と福祉の現場から～」
 （11月13日 於大阪府立大学中百舌鳥キャンパスサイエンスホール）
 主催：堺市、大阪府立大学人間社会学部
 共催：女性学研究センター、地域福祉研究センター
 協力：女性研究者支援センター
 講師
 杉村直美（高校養護教諭）
 堺市女性相談員
 原健一（佐賀県DV総合対策センター所長）
 司会
 山中京子（大阪府立大学）
- ・堺市・大阪府立大学共同公開ピースセミナー
 パネルディスカッション「在住外国人から見た日本社会の今」
 （11月30日 於大阪府立大学中百舌鳥キャンパスB3棟119教室）
 パネリスト
 長瀬アガリン（川口フィリピン人会【KAFIN】代表）
 平松マリア（財団法人とよなか国際交流協会職員
 Hope of Asia -Media Production 代表）
 司会
 上村隆広（大阪府立大学）

* * *

大阪府立大学の改組に伴い、今年度より女性学研究センターは新たに設置された地域連携研究機構に所属することになり、専任研究員5名、兼任研究員4名の充実した体制で、新たなステージを迎えました。理系を中心とする改組によって、現状においては女子学生が激減する可能性も否定できず、女性にとっていっそう居心地の悪い大学になりかねません。学内における男女共同参画への取り組みがますます重要になってきます。しかし学内において女性学研究センターの活動はまだまだ知られておらず、その意義も認識されていないのが実情です。理学部を有していた旧大阪女子大学の教育研究の蓄積を活かし、西日本の女性学・ジェンダー研究の拠点として研究教育をすすめるとともに、学外だけでなく学内における発信に努力していきたいと考えております。本学は2010年度から3年間女性研究者支援事業に採用され、次年度が最終年です。女性研究者支援センターとは今後とも連携を深めながら、学内外におけるジェンダー平等をめざしていきたいと考えています。

新たな出発を記念して、12月に長年交流を続けてきた韓国梨花女子大学との国際シンポジウムを、2日間にわたって本学中之島サテライトにて開催しました。韓国と日本のジェンダー格差状況はよく似ているのですが、ジェンダー平等政策への取り組みの本気度は相当に異なり、日本が学べる点が多くあります。工学部、医学部も有する世界最大の女子大は、アジアでもっとも充実したアジア女性学センターを有し、学内外で活発な教育研究活動を展開しています。今回は女子大時代に一度お出でいただいたこともある、梨花女子大学学長のキム・ソンウクさん、梨花人文科学院のイ・ギョンランさん、アジア女性学センターのイ・ミョンソンさんをお迎えし、大阪女子大学同窓会斐文会、大阪府男女共同参画推進財団、アジア・太平洋人権情報センターに共催いただき、かつ地域貢献事業としての補助もいただき、同時通訳を実現できました。大阪女子大の卒業生であり本センターの事業には常々お力添えをいただいている竹中恵美子さんには日本のジェンダー政策の現状を、山地久美子さん（関西学院大学災害復興制度研

究所)には、災害対策の観点から男女共同参画政策の重要性をお話しいただきました。自治体関係者の参加者も多く、勉強になったとの感想をたくさんいただきました。また2日目の文化研究シンポジウムにおいても有意義な研究交流が実現できました。奥野理事長・学長、安保副学長・地域連携機構長、国際交流担当の寺迫副学長の全面的なご協力、また地域連携研究機構の事務スタッフの方々の心強いサポートに心より感謝します。またこの機会に学長会談を行い梨花女子大学と本学の大学レベルでの学術交流協定締結を進めていくことになり、今後のいっそう実り多い交流が期待されます。本センターもその一翼を担っていく決意です。

恒例の女性学連続講演会は今年はこの国際シンポジウムに代えさせていただき、5回の連続セミナーを、大学院生中心の運営によって6～7月に開催しました。例年とは異なり学生院生も参加しやすい木曜の夜に開催しました。

またもうひとつの国際交流事業として、8月に大阪府男女共同参画推進財団とアジア・太平洋人権情報センターによる韓国スタディーツアーの機会を得て、韓国聖公会大学NGO大学院とのワークショップをソウルにて開催しました。日韓の研究者とアクティヴィストによる若い世代も含めた貴重な交流の機会となりました。聖公会大学NGO大学院との交流も今後とも継続していくことになりました。

11月には男女共同参画事業として、堺市、本学GPとの共催事業としてシンポジウム「デートDVを考える」を、また同じく堺市との共催事業として「ピースセミナー」を開催しました。

コロキウムは例年どおり12月から2月にかけて3回を実施しました。

改組による新体制は24年度から本格的にスタートしますが、女性学・ジェンダー研究の重要性はますます高まっています。今まで以上に活動を充実させ、新たな展開に備えて努力していきたいと思えます。

(伊田久美子、村田京子)